

平成30年09月05日

野々市市議会議長 早川 彰一 様

(報告者)

会派名〔又は〕  
代表者〔議員名〕

市政議員会  
土田 友雄



## 政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、~~研修~~、~~要望~~・~~陳情~~）を実施したので、報告します。

期 間	平成30年08月28日から 平成30年08月30日まで
視察、研修、要望・ 陳情の場所	青森県田舎館村・弘前市・むつ市・大間町
参加者氏名	土田 友雄・杉林 敏・宮前 一夫
目 的 (調査・視察事項)	田んぼアートの観光手法について（田舎館村） 市民協働事業の手法について（弘前市） 体育施設整備計画について（むつ市） 補助金に頼らない市民活動について（大間町）
調査・視察概要	<p>（目的、内容、結果、所感等について記入）</p> <p><b>田舎館村（田舎館村役場横・田んぼアート第1会場）</b></p> <p>・埼玉県行田市の田んぼアートを委員会の視察においても見学したが、今回弘前市の視察に先立ち、青森駅からの経由地でもあり途中下車し、観光事業を村役場で手掛けていることもあり、視察を行った。</p> <p>城の外形をした田舎館村役場の屋上に展望台を設け収益を図っている財政努力は素晴らしいものがある。市の施設の利活用を率先して行い、収益に寄与し（結構な財政補填になっているとのこと）、長期間にわたって観光集客を図る取り組みは、当市においても大いに参考にすべきものがある。</p> <p><b>弘前市（市民協働事業 市民参加型まちづくり1%システム）</b></p> <p>・当市においても、市民協働の提案事業採択はあるが、予算上限や対象事業の数が少ない（全体予算が100万円）こともあり、決して活発とは言えない。弘前市においては前市長が公約として掲げ、個人市民</p>

税の1%相当を市民協働事業に割くとのことで、平成22年に弘前市アクションプラン2010の策定とともに平成23年の6月から創設された制度とのこと。平成23年度から平成24年度には6,000万円の予算計上、平成25年度から平成29年度までは3,000万円（実績をもとに設定）、平成30年度は2,800万円を予算化：足りない部分は補正で補うとのこと（現市長はもともと市民協働関係の課長でもあり、この事業は継承しているとのこと）。

事業企画書の策定からプレゼン・公開審査という大まかな流れの中、補助金は最大90%を行う。10%は企画するもので負担（市民5人以上の団体なら受付）。また、単年度の補助ではなく、内容によっては定着化に向けて複数年度の補助も行っている事例もある（ただし毎年度審査あり）。

市民団体の自立化を促すことが課題でもあり、それもあって、各補助金対象団体の交流会を設け、相互の交流と活性化も図っているとのことである。

また、補助対象は町会からの申請が多いということもお聞きし、本当の意味での市民協働になっていると思った。（丸投げでない）

当市においても、市政委員会：杉林議員の一般質問でも行ったが、より効果的な補助のための施策を再考する必要があると考える。

#### むつ市（新設体育施設の検討の流れについて）

・むつ市では、旧むつ市民体育館が耐震化対応できておらず、平成25年11月に閉館した。その後市民から早期建設の要望が出され、各競技団体との懇話会・市民意向調査を踏まえ、市民ワークショップを実施し、平成28年3月に基本構想・基本計画の策定を行い、平成28年7月に基本設計・実施設計へ着手、市民ワークショップを計8回実施（市民や奥菜競技団体対象）、庁内プロジェクトチーム（10部局29課にわたる）を発足させ、総合アリーナの基本方針・設計趣旨・施設計画を、基本計画の理念を踏まえ、利用者の意見や目線を反映した、市民の皆さまが求める施設を計画した。

ワークショップはテーマをもって開催し、様々な対象へのアプローチを行っていた（中高生向け、老人会や町内会などなど）。

既設の「おおみなと臨海公園」から県有地を取得し、都市公園としての位置づけを行い、スポーツだけではなく、余暇を過ごす市民の憩いの空間となるような建物配置計画・駐車場計画としたとのこと。当然防災拠点としての機能のほか、収益面を考え興行的な催事の実施（スポーツイベント等）も考えたものとなっていた。

当市においても、しっかりと市民の意向、そして利用する市民や関係団体の意向を十分留意し、近未来の防災、市民だけではなく運用益も

含めた市としての利活用を考えたものにしていかねばならないこと、街づくりに寄与する施設でなければならないことを学んだ。

大間町（Yプロジェクト 島さま まちおこしゲリラ あおぞら組  
元組長 …現組長（町役場職員出張のため・別添資料 大間町 オーマの休日 ポスター人物）

・おもしろいことを自分たちで始め、お金になることを考えよう。

もともと島さんがリクルートにいたそうで、地元の実家を継がれるため退社され、地元を元気にするためNHKの朝ドラ（当時）「私の青空」を見て「頭、おがしくなったから「あおぞら組」と名付けたそうである。モットーは「便利な暮らしより、おもしろい暮らし」。

「理屈こねる前に、まんず動け！」…2000年8月、大間港を出港するフェリーに向かって旗を振る「旗振りウエルカム隊」を初出動。大間発！怒涛のまちおこしゲリラプロジェクトを次々と手がける。

例) 大間T増殖計画 2002年から2004年

井の頭線ジャック

県立高校の体育祭で紅組の先生たちが

・・・マグロー筋のロゴの入ったTシャツを着て活動

例) 日本列島マグのぼ化計画

5月5日に泳ぐ魚は、マグロであるという教育

函館市の五稜郭タワーに掲出（10mを超すマグロのぼり・クラウドファンディングで資金集め）

例) 大漁だべさグッツ

古い大漁旗を使った商品を製作

例) 町民はスターである

メディアに出ると、だれでもまんざらでもない人になる。

などなどのゲリラ戦を展開、10年旗を振り続けていたらまちおこしゲリラ菌がDNAになった。＝後輩たち（高校生）が後を継ぐ。

女子高生が大漁旗を港で振り出した。

その後、まちおこしゲリラ女は、ゲリラ旅行社に…会社を立ち上げる。また2014年3月に女たちのアライアンス「マグ女」マグロ女子会を立ち上げる。

青森県下北半島だけではなく、津軽半島はもとより向かい岸の函館・江差界隈にも広がる。

「隣の町が死んで、自分のまちだけが輝くってことはない！」

まちおこしはまず自分から、お金がないからできないではなく、楽しいことを続けていけばそのうち仲間がついてくる、ということを実感した。

お金をかけないまちおこしではなく、たまたまお金がかからなかった

	<p>だけで、そのうちお金が必要になっても、アイデアがお金を生み、そのお金が次の活動資金につながっていくという好循環のサイクルと、そのまえに「たのしいことやるべ」という気持ちが大事なことを知った。</p> <p>ただし、島女史という素晴らしい「菌」がいたからこそ、増殖が始まったともいえる。</p>
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。